

実行委員長 曾秋桂 挨拶

皆様、はじめまして。今までプロフィシエンシー研究を中心に各国で開かれてきた本国際シンポジウムを、2017年8月4日、5日(金曜日、土曜日)の淡江大学で開催することになりました。今回のシンポジウムでは、「双方向教育における教師と学生のあり方」というテーマで、基調講演、研究発表(ポスター発表を含む)、パネルディスカッション、ワークショップ等を行います。

現在の世界の教育の流れを見渡せば、教師が主導権を握り、一方的に教える教師中心の授業から、学生が自ら積極的に考え学ぶ学生中心のクラスへと方向が大きく変わってきています。台湾でもその流れを取り入れるべき時期に来ているのではないと存じます。

そこで今回「双方向教育における教師と学生のありかた」というテーマで考え、これから台湾に求められる新しい日本語教育のアプローチを考えていきたいと存じます。さらに、各国同士の学校教育の違いにも注目します。各地域の外国語教育の相違により、運用力が育ちにくい環境もあります。

例えば、台湾の場合は、教師とは知識を与えてくれる対象ですので、学習者は一方的に知識を吸収する受動的学習に慣れてしまい、自ら考え、答えを導くような能動的な学習方法は、定着しにくい現状にあります。つまり、アウトプットをさせたくても、双方向に慣れていないから、できないという状況です。よって、本シンポジウムでは、各国の外国語教育の違いや取り組みについて積極的に意見交換をする場としたいと存じます。

このシンポジウムを台湾で行うことにより、今後の台湾の日本語教育の新しい発展に向けて以下の3つに繋げていくことを目指しております。

1, 学生の日本語会話運用力の見直し

日本語能力試験では測りきれない「会話運用力」を OPI のレベル別フレームワークを利用して、測定する試みを取り入れ、OPI 国際会議をきっかけに台湾の学習者にもっと会話の実社会での運用力の重要性を理解していただくことを目指します。

2. 教師の会話授業と学習者の会話力評価の見直し

会話中心のクラスはややもすると、教科書の内容の機械的な繰り返しや、雑談でのお喋りクラスになってしまう危険性があります。OPI では各レベルに応じて会話能力で求めるポイントがあり、それは初級から上級まで具体的な目標として取り入れることが可能です。それを会話を担当している教師の皆さんに理解してもらい、より実践的で社会的にも有益な会話授業を行ってほしい、それがこのシンポジウムの狙いです。

3. 学校のカリキュラムの見直し

文法・読解・翻訳中心また教師中心の授業から、OPI を活かした日本語能力の実践的運用目標の設定により、学習者中心の授業デザインと具体的な会話の即時性を活かした授業を作るきっかけにしていきたいです。

特に会話の運用力を具体的な基準で評価できる OPI の概念を利用することで、上記 3 点の範囲において今までややもすれば固定化していた台湾の日本語教育のカリキュラム編成に新しいインパクトを与えるきっかけになるのではないのでしょうか。これにより、より私たち開催実行委員会では会話運用能力重視の日本語教育が台湾でも広まって欲しいと考えています。

みなさまの積極のご参加と研究発表へのご応募で、新しい日本語教育の提案とともに目指してまいりましょう。